

平成28年度第1回社会教育委員の会議

平成28年4月22日(金)

午前9時30分開会

開催日時	平成28年4月22日	開会 9時30分 閉会 11時00分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	議 長 原嶋 和男 副 議 長 柴田彩千子 委 員 北村 景子 委 員 石田 静子	委 員 城 瑞枝 委 員 小山田佳代 委 員 佐野 郁蔵 委 員 原田 隆司	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 石原 弘一	図書館長 菊池 幸子 公民館長 前島 賢	
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主事 小佐野七香		
傍聴者人数	0名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 三者懇談会の内容について (2) 平成28年度の視察場所及び日程について (3) 今後の社会教育委員の会議における協議内容について (4) 平成28年度社会教育関係団体スポーツ関係団体への補助金交付について (5) 社会教育関係団体補助金の交付について (6) その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第3次小金井市生涯学習推進計画について (2) 第3次小金井市子ども読書活動推進計画について (3) その他

原嶋議長 おはようございます。今日もよろしく申し上げます。進行にご協力願います。
まず、この次第どおりにとのことですが、資料の確認をお願いします。

小堀生涯学習係長 資料の確認をさせていただきます。

1枚目が次第になります。次に、小委員会ではお配りしているので、小委員会の委員の方はありませんが、第3次小金井市生涯学習推進計画及び同じく概要版です。あと、第3次小金井市子ども読書活動推進計画、冊子状になっているものです。三者懇談会のこれまでの実施内容について（資料1）。社会教育委員の会議による視察研修について（資料2）。平成28年度スポーツ関係団体への補助金交付額。社会教育関係団体補助金関係資料、補助金の要綱と事務取扱基準と提言と3点あります。平成27年度第9回社会教育委員の会議会議録。平成28年度日程表。

ここからは委員の方だけになりますが、三者懇談会の開催について（通知）と、小金井市月刊こうみんかん。小金井市子どもの権利に関する条例、小学生向け1部と中学生以上向け1部。2015「青少年のための科学の祭典」と、2016年の科学の祭典ごあいさつ。2016「青少年のための科学の祭典」出展のご案内。とうきょうの地域教育。第26期活動記録、小金井市スポーツ推進員協議会から発表されたもので、以上となります。

何か不足しているもの等あったら、お伝え願います。

原嶋議長 ありがとうございます。

石原課長、次はそのまま入ってよろしいでしょうか、それとも先に伝えることがありますか。

石原生涯学習課長 私、議会が10時からありますが、その説明員として出席を求められているので、9時50分ぐらいになったら退席させていただきます。

あと、平成28年度、全体の前提条件ではありますが、いろいろな施策を進めていく上で予算の裏づけが必要になりますが、平成28年度について、市議会のほうで1年分の予算の議決が得られていないので、今現在、予算の裏づけがあるのは基本的に4月、5月の分の2カ月分の予算というものを前提に予算措置をされています。そういう関係があるので、なかなか新しくこういう施策を始めていけるんじゃないかとか、そういうご議論は、いただいても先が見えないのかなというところがあるので、そういった状況、ちょっとご理解いただき

たいと思います。

以上です。

原嶋議長 ただいまのことで、何かご質問はありますか。
西田部長から何かありますか。

西田生涯学習部長 申し上げたとおりです。5月までの予算しかとれていないので、その先の話をして結構詮ないことが多くなるかなということでもあります。ここで、図書館長が交代しています。課長から紹介します。

石原生涯学習課長 4月1日の人事異動で、図書館長、上石が3月31日で定年退職だったので、後任に図書館の奉仕係におった菊池が参ったのでご紹介します。

菊池図書館長 おはようございます。図書館の菊池と申します。図書館の中には長く勤務しているが、職責が今度は違うので、非常に緊張して今日は会議に出席していません。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

石原生涯学習課長 ありがとうございます。

それから、事務局のほうも、伊東が菊池の部下になって、図書館の奉仕係に異動になり、後任に4月1日付新規採用の小佐野が生涯学習係の主事として参りました。

小佐野生涯学習係主事 小佐野七香と申します。よろしくお願いいたします。

石原生涯学習課長 よろしくお願いいたします。

原嶋議長 それでは、ここにある会議の次第のとおり進めてよろしいでしょうか。
今日は(1)から(6)番まであります。

(1)、(2)、(3)、これについて、ちょっと私のほうで、けさほど、文章化したものを用意しました。議題として、プリントをちょっとごらん下さい。これが小委員会が出された中で、こういうことをやったらいいのかなということのお話です。小委員会報告が、結局このA4にかかわってくるということです。

まずは、三者懇談会ですが、資料1と並行してごらんになっていただければと思っています。よろしいでしょうか。

22年度から27年度にかけてです。直近では田中さんの「生涯健康で過ご

せる呼吸法」という、丹田というのか、おへそを中心とした呼吸法です。その前が、貫井北センターの見学ということで、非常にバラエティーに富んだやり方かなと。私ども小委員会でも、できるだけ、眉間にしわを寄せるようなのではなくて、懇談ということ、ちょっと太字にしたが、これをイメージして、できるだけ参加者に、意見の出しやすいものがどうなのかということで詰めてきました。日時については、もう既にご存じかもしれませんが、仮称として、昨年は非常に独特な呼吸法だったのですが、公民館とかという方々、図書館はちょっとわからないですが、そういった方々を意識して、「地域活動の活性化の取り組みについて」、子育て世代、働き盛りの人、シニア層、シニア層って幾つか、WHOだと、さっき調べたら65歳以上であります、そういった方々を呼び込むために、結構、皆さんも、社会関係の団体の方は、新たな人、若い人、こういったことを取り込む、あるいは積極的に参画していただく人が、なかなかいない、あるいは遠ざかってしまう、こういうのを経験的に皆さんで話し合ったらいかがなものかということで、私どもとして考えてみたわけです。

ただ、子育て・働き盛り・シニア層、広げ過ぎではないかというご意見があれば、その中からまた絞っていいのかなというようなことであります。基本的に懇談ということなので、1時間半ぐらいの中で、和やかに何か経験的なことを含めてお話し合いをする場面というのをつくっていききたいなど。

もしこの方向が決まれば、柴田さんか、このようなことを扱っている場面が多い、学芸大の先生であるため、ちょっとご提言いただいて、グループでお話し合いをして、それぞれのグループでまとめていただいて、そして最後にまとめになるかどうかかわからないが、こんなことで1時間半から2時間過ごすということの、まずは提案です。

石田さんについては、勝手に僕も、10分と言わずにお話いただければと。

石田委員 10分もある。これ、事務局長を呼んだほうがいいでしょうか。

原嶋議長 いや、石田さんでもです。おまかせします。

石田委員 わかりました。

石原生涯学習課長 元社会教育委員の本川さんですね。

石田委員 そうです。

西田生涯学習部長 懇談会なので、中の人だけでやったほうがよいのではないのでしょうか。

石田委員 わかりました。では、石田とさせていただきます。

原嶋議長 問題は、仮称のほうはどうするかです。話し合いということですのでよろしくお願
いします。

何かつけ加えることはありますか。今日、朝、多分、このことじゃないかな
ということで、実はこのテーマ「地域活動の活性化の取り組みについて」は、
簡単に言うとコピーしたのである。これは、社会教育活動の記録の中で、それ
ぞれの委員会さんが各市町村の自治体、いろんな検証をやっているので、この
ほうが言葉として妥当なのかなということで、このテーマをいただきました。
武蔵村山市の社会教育委員の会議では継続してこれをやっているようです。た
だ、問題点は、公民館とか図書館の方もいるので、広くおしゃべりできるテー
マがいいのかなというふうに思っています。

原田委員 小委員会の議論を思い出して、補足というか、私なりの感想を申し上げます
と、公民館も図書館も含めて、それぞれやっぱり利用者が偏っているというか、
一定の方に集中してしまい、もっと広く利用していただきたいなという悩みを
持っていると思うので、それぞれが知恵を出し合って、今まで来られていない、
利用されていない方に利用していただくためにはどういったことが必要でしょ
うか。図書館、公民館、あるいは社会教育の連携が、どんなことができるかとい
うようなことを具体的に話し合ったらどうかと。

議論の中でちょっとおもしろいなと思ったのは、ここに集まる方は、みんな
地域活動を一生懸命やっている方だけれども、仮に自分が、例えばひとり暮ら
しの老人だとしたらとか、男の人でも小さな赤ちゃんを持っていると仮定した
ら、どうして行きにくいのかなというようなことを想像してもらおうというよ
うな議論の進め方もあろうかなと。

そういう意味では、柴田先生に初めに10分程度の、このテーマ、解説をし
ていただいて、いろいろと地域でうまくやっている実例をお持ちなので、それ
を紹介していただいて、議論がしやすいようにしたらどうかと思いました。

原嶋議長 そういう話も小委員会でなされているということか。
小山田さんはどうでしょうか。

小山田委員 本当にそのように、これからどんな公民館や図書館がいいのかというような
ことをみんなで話し合って、ざっくばらんな感じで、懇談会ということである
ので、いろいろなお話ができたらということで、このような案が一応小委員会

で出たということです。

原嶋議長 11月に1回、年間では予定しているということです。それも視野に入れていかなくちゃいけないのかなと思っています。

石田さん、どうでしょうか。

石田委員 特に、やっぱりグループに分かれて一つのテーマをいただいたほうがディスカッションしやすいかなと思います。

原嶋議長 城さん、どうでしょうか。

城委員 私も同じように、グループに分かれて一つのテーマをお話し合いするほうが、何かすごくわかりやすいかなと思います。

原嶋議長 佐野委員さんはどうでしょうか、お願いします。

佐野委員 小委員会でいろいろ検討されたものが出てきているんだと思うので、それでよろしいんじゃないでしょうか。

原嶋議長 ありがとうございます。

この懇談会の時間の構成です。係長さんと柴田さんともう少し詰めて、あるいは出席者も当然あるので、グループ分けとか何かはこちらで任せていただいでよろしいでしょうか。こういうことをやるということで、各公民館さん、図書館にするので、また、出席者が出てきて、その中でグループ分けを作業としてやらせていただければと思います。また、柴田さんのご助言もいただければと思っています。ありがとうございます。

(2)と(3)と関係してきますが、ちょっとごらんいただきたいと思えます。今度は視察の関係です。これは資料2を並行してごらんいただければと思っています。実は(3)との絡みの中で考えているわけです。

(2)と(3)との連続性・関係性でこういったようなことを考えようということで、(3)、つまり学校と地域とのかかわりを少し深く詰めていったら、最終的にはそういうことが、僕ら、1年半ぐらいしか、もうあと任期がないですが、少しでも提言ができればいいのかなということを考えました。だから、

(3)番から先に言うと、小金井らしいコミュニティースクール、実は、前の期もこのことを計画に少し文字に入れようかという議論もありました。小金井らしい、やっぱり小金井はそのよさが絶対あると思います、教育委員会さんの

動きというのは。そういったものを僕らも勉強しながら、地域としてどうかかわれるのかというようなことをやっぱり頭の中に入れて（２）を考えてみたわけです。

ここにいらっしゃる、学校関係にかかわっている人が多いのか、佐野委員さんもそうです、長坂さん、古家さんはもちろんそうであります。多くの方が多分かかわっている、ある程度共通的な話題にも、これは進展していくんじゃないでしょうか。小山田さんは特にその中でも深くかかわっていらっしゃりますが、その（３）からしたら、もう箱物、ごらんのように、清里山荘とか何とかセンターとかというのではなくて、僕は箱物を追求しても、なかなか予算の問題もあるし、一定、それが具体化、予算化するには相当なことがかかるんじゃないかと重います。そういった意味では、小中の関係とか、あるいは保護者、地域がうんとかかわっているところを少し勉強しようではないでしょうか。そして、一年半ぐらいかかって、できたらこういった小金井らしさのもので、では、小金井らしさって何かといたら、その勉強をしなくちゃいけないが、そういった中で、こういうことが私たちとしてできるのではないかという提言が少しでもできればいいのかなということです。

（３）と（２）の絡みでちょっと考えて言ってみたわけです。具体的には、小中一貫、あるいは小平の小学校、これはかなり小山田委員も熟知しているので、例えば１日で２つの学校を回りながら我々が研修していくということになると思います。これが提案です。

そもそも社会教育委員って何をするんだと言うんだけど、今、いろんな研修をしても、かなり能動的、行動的な社会教育委員があるのではないかというふうに肌として感じています。３年間やらせていただいて、それも後で配られたものをごらんになればわかりますが、諮問だけじゃなくて、いわゆる自分たちで考えて解決法を見出すような方策でいろいろ取り組んでいるのかなというのがあるので、小金井市もようやくと計画が終わったので、こういったことのやり方でどうなのかなということです。

（３）から除いて（２）を一応提案してみているわけです。そもそもコミュニティースクールって何と、そこから勉強しなくちゃいけないかもしれません。小金井らしさとは何か、そういうところも勉強しなくちゃいけないかと思えます。

西田生涯学習部長　ちょっとすみません。ここでせつかくこの議題に入ってくださいますが、今、総務企画委員会というのを議会でやっていて、その関係で、今、生涯学習課長も中座させていただきました。実は図書館長も、あと公民館長も実は関連をしているところがあります。それで、早目に退席をさせていただきました。

いと思っているので、もしよろしければですが、先にここの報告事項の、これ、ほんとうにイレギュラーで申しわけありませんが、(2)の第3次小金井市子ども読書活動推進計画についての報告を先にさせていただいておいたほうがいいかと思い、ちょっと話が途中になって申しわけないですが、よろしいでしょうか。

原嶋議長 よろしいでしょうか。
 お願いします。

菊池図書館長 すみません。報告の(2)、第3次小金井市子ども読書活動推進計画です。
 お手元にお配りさせていただきました。前回の会議で意見及び検討結果についてご報告をさせていただいています。今回は冊子ができ上がったというご報告になるので、ごらんいただければと思います。既に市のホームページ、図書館のホームページと、あと、各館には配布済みです。
 以上になります。

原嶋議長 ご苦労さまでした。

西田生涯学習部長 庁内印刷ということになったので、ちょっと見かけはそういう感じですが、ホームページではカラーで載っています。学芸大学の正木先生にご協力いただいて、かわいいイラストを入れていただいています。庁内で作ったにしては非常にできがよいと自賛していますが、ほんとうに社会教育委員の皆様にもいろいろご協力いただいてできたものです。今後、後で報告がある、小金井市生涯学習推進計画と密接に絡んでいるものであるので、ぜひご参考にお読みいただければと思います。

原嶋議長 ありがとうございます。

西田生涯学習部長 以上です。

原嶋議長 よろしいでしょうか。そういったことで、地域が深く関わっている小学校への視察、小学校といっても、三鷹の場合はご案内のように小中全て一貫であるので、中との関係も出てくるかな、話の中で。それと、小学校独自のというところで、小中のところと、小学校というところをちょっと選択してみたわけです。

 何か補足、説明、小委員の方、よろしかったら、まだありますか。小山田さ

ん、どうでしょうか。

小山田委員　　ころ合いが、昨年度もいろいろ研修とか参加させていただいて、この間は中学校の居場所づくりとかということもされていましたが、やはり小金井で、これから、今というところで、昨年度からちょっとコミュニティースクールという議題も出ており、また、今度、教育委員との懇親会というか、意見交換会というのも今後あるかもしれないということも含めて、社会教育委員のほうで提言というか、何かできたらというようなことでお話が始まったが、小委員会のほうでは。

やはり、今、学校のほうも、地域の方々、ボランティアも入ったり、それぞれの小学校で小金井のほうも地域との連携というところがあるが、それをより、近隣の市ではコミュニティースクールという制度にのっとった形で、そういった地域の連携本部であるとか、コーディネーターさんというのが配置されてということがあるということで、近隣の先駆的な事例をちょっと見ながら、小金井のコミュニティースクールということではどういった形でどうできるのかとか、それが小金井らしいところではどんなものなのかというのを提言して行って、やはりこれからの、学校を中心とした地域と家庭と、その三者が連携して地域の子供は地域で育てるといような、子供たちをみんなで育てていくということがテーマとしても大事ではないかということで、コミュニティースクールということをし少しみんなで考えていけたらということで、一応提案をしようということで協議があったと思います。よろしくお願いします。

原嶋議長　　ありがとうございます。

今、小山田委員から話があったように、(2)、(3)を通して、こういったような、僕らも学習して、教育委員会さんと話し合いができればな、先の見通しであるが、そういう肥やしにしていくというふうに考えての、私どもの提案になります。

原田委員　　よろしいでしょうか。

僕、この間の小委員会でコミュニティースクールというのを初めて教えていただきました。また、小金井らしいというのはどういうことかという議論をしました。ちょっと共通理解をしておいたほうがいいのかなと思うので、議長さんのほうから解説をお願いできますか。イメージというか。小金井らしさということと、コミュニティースクールとは何かという。

原嶋議長　　妥当なのか、私の解説というのは。

原田委員 小山田さんのほうが。

西田生涯学習部長 実は、コミュニティースクールというのは、地域と学校と、今いろいろ言われている学校を、どう地域に溶け込ませるか、あるいは地域について、学校のほうがどういうふうにもた見ていくか、双方のかかわり方というのがそれぞれ独立してあるものではないだろうということで、コミュニティーと学校とのつながりというのは、簡単に言えばそういったものを連携させていこうと、一言で言ってしまえば、学校もコミュニティーの一部なんだよということを明確に今後していこうということで、いわゆる生涯学習に当たる分野と学校教育に当たる分野が連携をしていったらどうかというような、もともとは発想から生まれてきたということになるものだと思います。

目新しい言葉で、ある意味、これがそうだというようなものは実はあるようでないような感じもあります。そのコミュニティーとどうかかわるかというのは、まさにここに書いてありますが、小金井らしいとかという書き方もされていますが、確かに地域地域によって、コミュニティーのあり方自体が、それぞれの地域で違っているようなこともあると思うので、これをやればコミュニティースクールのでき上がりであるというのは、基本的には、そんな決まったものというのではないのかなというのが私の個人的な感想です。だから、こういったことをやっていただくのは非常に意義があるかなと思います。

コミュニティースクールのあり方についてであるとか、生涯学習の観点から見た小金井らしいコミュニティースクールとは何かとか、そういうような感じで議論を進めていただければ非常にありがたいというか、学校教育とのすみ分けと言ったら変だが、学校教育に対して生涯学習はこんなふうな考え方を、社会教育委員の中で一旦考えたので参考にして進めていこうというような形、その辺だけご配慮いただければありがたいなど、そういう感想を持ちました。申し訳ない、ちょっと余計なことを。

原嶋議長 どうでしょうか。(2)と(3)を、関連性、連続性を考えるときに、こういうことで進めたらいいのかなと。あと1年半ぐらい、我々、任期もあるから。

石田委員 私、コミュニティースクールそのものがわからなくて、向陽中学や国分寺に行って、ああ、こういうものかというものが、少しおぼろげながらわかりましたが、そのときに、教育長さん、とてもこういうあり方について前向きな姿勢だったような気がしましたが、だから、小金井市内でこういうものを目指している、受け入れたいという地域と学校があるのかなということをそのときに思

って、それからちょっと第3次にかかわってしまったので、全然こういうコミュニティースクールが出てこなかったの、ここでこういうものが出てきたのはちょっとうれしい。前に視察したところがなおざりにならなくて、これから生かせるのではないかというところがあってというので、私は賛成の意見です。

原嶋議長 佐野委員さん、どうでしょうか。

佐野委員 ちょっと難しいです。教育委員会の中に生涯学習部と学校教育部というのが2つあって、関連性というか、その辺のところはどういうふうにやっていったらいいのかなというのを考えると、なかなかちょっと難しい部分も出てくるのではないかというふうに私自身は思います。

ちょっと先を行き過ぎているのではないかなという気が、私は思います。だから、私たちが委員として地域と学校がどういう関係にあるのかということ、まずお互いに議論をすることが、私は大事なんじゃないかなという気がします。こういうところに視察に行くということ自体はいいと思いますが、私たちの中に、じゃ、どうやって地域と学校がかかわっているかという、その理解度がどのぐらい進んでいるかというのはちょっと誤差があるのではないかなという気がします。

というのは、生涯学習のほうで、いろいろ学校と地域と、それから子供たちとの、そういう関係の事業というのは、小金井で結構やっているわけです。だから、その辺のところを社会教育委員がどういうふうに捉えているかとか、理解しているかということ、ちょっと話し合っていた上で、こういう形に持っていったほうが理解しやすいんじゃないかなというふうに、私は思います。

いきなりぼんとそこに行ってしまうというのではなくて、じゃ、自分たちの小金井はどうなんだということを、やはり少し議論した上で進めていったほうがわかりやすいんじゃないかなと、そういう気がします。これが私の意見です。

原嶋議長 城さん、どうでしょうか。

城委員 三鷹の学校とか小平の小学校とかに触れる機会がないとか、ほんとうに地域のことわからないですが、こういうのが今どういうふうなのかなというのを視察するのはとてもいいことじゃないかなと私は思います。

原嶋議長 学習の仕方のサイクルだと思います。例えばそこを見学して、僕らがそれを習って、履修して、その中で、また僕らで話し合う。つまり、話し合っ

するか、それはどっちが先かというのは、僕の場合は、とりあえず行動して、伺って、また僕らでここで話し合っ、ああいうふうな対応の仕方が、地域がかかわっている、社会教育委員としてどういうふうに考えるのか、どういうふうに思うのか、そういう形でも僕は、何が先か、その順序性というのは僕はあまり。というのは、皆さん、多くの方々が見ていると、何らかの形で、関係団体という形で出てきている方が多いわけです。いろいろ意識を持っておられるというのがあるのではないかなと思います。

原田委員 先ほどの佐野委員のご指摘はそのとおりだと思いますが、まず視察をやって、いきなり提言の話に行くのは無理だと思います、おっしゃるように。やはり先進例というか、具体的にやっているところを見て、刺激を受けた上で、じゃ、小金井は現状はどうなのかというのは、各委員の皆さん、よくご存じの方がたくさんいるので、出していただいて、そこから議論を始めるというのがいいかなと思いました。

原嶋議長 いきなりコミュニティースクールということは、僕も、これはこの前、小委員会からいただいた言葉を入れましたが、ちょっとこの辺もほんとうに勉強しないと簡単にああこう言えない部分があるので、まさしく研修であると、ここが。そこでコミュニティースクールという言葉、僕らがほんとうに理解して使えるのかどうか、なおかつほんとうに地域が学校にどうかかわれるかレベルの、最終的にはあり方についてお話しできるのか、その段階まで行けるのかどうかというところも視野に入れていきます。

佐野委員 学校の現場の教員がどういうことに一番悩んでいるかということ、前にちょっとお話ししたと思いますが、要するに、地域との対応に非常に苦慮しているというか、85%ぐらいの先生が地域との折衝に非常にエネルギーを費やしているというデータが出た。だから、そういうこともちょっと考慮していただいて、社会教育委員が地域と学校というものをどういうふうに結びつけていったらいいのかということも考えることも大事なんじゃないでしょうか。要するに、学校の教諭が非常にそういうものに対してエネルギーを使っています、それを軽減してあげる方法は何かないのでしょうか。地域で、力で何かないのでしょうか、それをちょっと社会教育委員としてやはり考えてあげることが必要なんじゃないでしょうか。というのは、要するに、教師が生徒、子供たちに使う時間をいかに増やしていくかというのが、今大きな問題になっているんじゃないかなと思います。だから、そういうこともちょっと考え合わせて、社会教育として考えていってあげることが大事なんじゃないかなと。事務処理も非常に多くて、前も言ったと思いますが、ITをうまく活用できないのか、それに

はこういうことがあるんじゃないかというのをやはり提言してもいいんじゃないかなというふうに、提言というか、何か論じてもいいんじゃないかなというふうにちょっと思います。

北村委員

この間の小委員会に出て、私もコミュニティースクールのお話を初めて聞きましたが、今、佐野委員のお話を聞いて、やっぱりこれは話し合うのにいいなと思いました。というのも、コミュニティースクールで、今の小金井の学校に持っていないのはコーディネーターさんです。いろんな人が、地域の方が学校にかかわっていますが、そのコーディネーターさんという人がいないから何かうまく連携がとれていない状態で、そのコーディネーターさんをつくることで学校の先生の負担を減らせればいいねという話でした。

原田委員

佐野委員の今のご意見、大変貴重だと思います。小委員会でも同様の話をしました。それで、やっぱり先進例というか、もうやっているところを見ると、逆に先生の負担が増えちゃっているところが多いということで、それはやっちゃいけないと。むしろ、今、佐野さんがおっしゃったように、負担を減らして子供と向き合う時間を増やすというコミュニティースクールというのはどうやったらできるかということ。それこそが小金井らしさなのかなというような議論をしたので、それは大事にしていったほうがいいと思います。

原嶋議長

そのほか、ありますでしょうか。

(3) から言うと、小金井らしいコミュニティースクールまで、ひょっとしたらここまでいかないのかもしれない。やっぱり地域のかかわり方、どうしたらいいのか、そういうあり方について、うちはこんな勉強をしたということでお話を持っていくやり方がいいのか、コミュニティー、ほんとうに勉強しなくちゃいけないのかなと。

柴田委員がおっしゃったように、実はコミュニティースクールの中に非常に難しさを抱えているのは、やっぱり教育委員会に、例えば運営評議委員会とか、名前がいろいろあるが、教職員の任用とか人事権まで入ってきているような言葉もある。そういったような大きいことを考えると、ほんとうにほんとにコミュニティースクールという言葉が使えるのかどうか、そういうのを僕らも学習をしながら、地域のかかわり方、学校のかかわり方について勉強してもいいのかなと。ちょっとまだ、コミュニティースクール、ぱっと出したが、そういうようなことで、もう少し文言をやわらかくして進めたらどうでしょうか。コミュニティースクールとほんとに出してしまったら結構難しいと思います。

小山田委員

なので、コミュニティースクールということでもうまくいっているところは、

ほんとうに先生もすごく楽になり、地域ともうまく関係がつくれてということで、学校に入っても、皆さん、にこにこされているというのは、私も幾つかそういう事例も見ていたので、ぜひ、皆さん、見に行っていたり、三鷹と小平だけでなく、いろんな事例とかも、今、ホームページとか、そういうので拾ってこられたりするんで、実際に、まず、社会教育委員の皆さんに知っていただいて、そこからいろいろお話が始められたらいいのではないかと思います。

柴田副議長

大学の授業が1限あって、おくれて来て申し訳ありません。

コミュニティースクールだが、やっぱり教師の負担を増やさないように子供の学びを深めるためにはどうしたらいいのかということがやっぱり一番重要なことだと思います。例えば三鷹を見に行くと、地域連携をしたいときに、教師はコーディネーターさんに1通の所定のプリントに、何曜日の何時間目にこういう授業をやるので、こういう地域の人を手配していただきたいということ、ぽんと2週間ぐらい前に入れます。職員室にそういうポストがあります。そうすると、コーディネーターさんがそれに則した地域のボランティアさんを配置してくれるという。ボランティアさんと教師の間には連絡ノートというのが1枚あるが、それでかなり交流が深められて、次にもつながるというシステムができているということで、教師の負担というところは、その学校に限ってはあまり大きくなっていない。むしろいい授業を進めていくためにちゃんとした仕組みができているというような事例です。

コミュニティースクールにもいろいろあります。ほんとうに行政からコミュニティースクールになれと言われて、学校運営協議会というものを設置したところもあるし、そういった実質的な、ほんとうの意味での地域に密着した学校経営というのでできているところ、いろいろなのかなというふうに思いますが、先ほど北村委員がおっしゃったように、やっぱりコーディネーターを養成するところが社会教育の仕事として一番大きいところなのかなというふうに思います。こういった学校支援地域本部も、教育委員会の中で、学校教育部門ではなくて、いろんな自治体で生涯学習推進課とか社会教育課というところに置かれているので、やはりそういう地域を支えるコーディネーターを社会教育側が養成するというのは、今、喫緊の課題として私たちも共有していいものかなんじゃないのかなというふうに考えます。

佐野委員

前回の、関東静の大会で栃木の話がちょっと出て、教科書に基づいて、そこに出てくるいろいろな文化的なものについては、その地域の方に学校に来ていただいて、それでやっていただくというような事例発表で、そういうお話が出

ていたが、今のコーディネーターさんの養成とか、そういうものも、似通っているのではないかなというふうに、私はちょっと思いましたが、いかがか、一緒に出ていただいた、聞いていたと思います。

原田委員 その話、私、ごめん、記憶がないです。分科会であったでしょうか。

佐野委員 たしか栃木だったと思います。ああなるほどなという、授業の、特に外国の文化についての、教科書に出ている内容を、地域にいる、その国の方に授業をやっていただくという、非常に今の柴田委員のお話に通ずるものがあるんじゃないかというふうに思いました。そういうデータベースが何かきちんとでき上がっているんだと思います。だから、何か要請が来たらそれに応えられる人材を学校に派遣できるという、何かそこまででき上がっているように私は思いました。すごく大事なことだなと。

原嶋議長 話し合いを進めていくと、逆に結論みたいなのが出てきちゃって、コーディネーターの養成、我々の課題、やっぱり教員の負担云々、それももちろん視野に入れながら、とにかく実勢を見て、これは1年かけて、こういうことで話し合っていくんだなというふうには思っています。その感想を今度はみんなで述べ合いながら、社会教育委員でどこまで何がかわれるのかなということなので、いきなり（3）ですぐにべき論を言わず、1年間ぐらくゆるらせているというスパンの中で進めていったらどうでしょうか。かなり、今、いろんな具体的なものが出てきていますが、どうか、そのあたりで。

西田生涯学習部長 今、小金井市の実情から申すと、教育委員会のほうでも、学校教育部であるが、やはりいろんな問題があり、教育委員会側から学校に対するアンケートであるとか、調査であるとか、回答ものが非常に年々増えているというような実態が実はあったようであります。それで、今の教育長になって、そういうやらなくてもいいようなアンケートであるとか、一括でできるようなものというのはなるべくまとめてしまって、教員の負担になるものを減らしていただきたいというような指示を出しました。単なる統計をとっているだけで、そういう意味がないようなものはやめてしまえというようなことで、今、ほんとうに問題になっているのは、教職員、教員の先生方が、いかにほんとうに子供という、本来の仕事に集中できるかということが、非常に小金井でもやっぱりこの辺が問題になっていると。その部分についてどういうふうに学校、例えば校長先生、副校長先生は学校経営であっふあっふになっちゃっていると。地域の方々がいざと参加してくれるのはありがたいんだけど、体系化されていな

いと、やはりその対応にまた時間を割いてしまうというようなこともあって、いろいろ、皆さん、今年もたしか小金井市の学校教育部では、地域の人たちに授業をしてもらうとか、そういうようなこともやっているようですが、そういうのが何かうまく機能していくような形に持っていければ、先ほど佐野委員がおっしゃったようなデータベースであるとか、そういうのも最終的にはすごく役に立つような話になっていくのかもしれないし、ぜひこちらの事務局としても活発なご議論を、最終的にコミュニティースクールという話でおさまるのかどうかは別にしても、この話であります。だから、地域とか生涯学習の分野で学校のほうにどうかかわっていくのかというような話し合いはぜひしていただければというのは、事務局のほうでもお願いしたいような話でもありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

北村委員 自分の子供が通っている小金井二小でも、実際どんな地域の人がどんな授業で来てくれているのかを把握していない。なので、P連でアンケートをとってみましょうか。いろんな学校の会長さんが、やっぱりちよくちよく学校に行っているんで、いろんな先生、校長先生、副校長じゃなくても話していると思います。うちの学校ではこういう授業のときにこういう人に来てもらっているよみたいなアンケートをとってみましょうか。

西田生涯学習部長 場合によっては、アンケートをとらなくても、うちの学校教育部のほうである程度押さえていることもあるかもしれません。それはちょっと調べてみないとわからないですが。ただ、議論を深めていくというか、するに当たって、小金井で今何をやっているんだというのを押さえなくて話していても、多分あまり先に話が、何か話が大きくなり過ぎちゃったり、逆に全然違う方向に行っちゃったりというのがあると思うので、今実際に小金井で何をしているんだろうと、地域の人たちが。そういうのを私たちのほうでも学校教育部でわかっているものがあつたら、資料提供できるものがあれば、ちょっと考えてみます。

小山田委員 なので、今回、このテーマでオーケーということで、今後どういうふうに進めていくかという、何からどうするかということになっていくのかと思います。

原嶋議長 もう少し、これに近い仮称の文章をつくってみましょうか。コミュニティースクールまで言葉を使うかどうかどうもをちょっと相談させていただきたいです。

ただ、我々も非常にすばらしい実践をやっている、生徒の視点、子供の視点、親の視点、あるいは学校運営の視点、そういうところをやっぴり見ながら、そして、また我々でキャッチボールして、そうすると、小金井らしいと、ほんと

うに僕らもわかっていないですが、その中で情報を得ながら、1年半弱か、我々の任期の中でこんなふうなことも我々社会教育委員の取り組みについてお話できたらいいのかなというふうには考えています。よろしいでしょうか。

石田委員 いいと思います。

原嶋議長 学校さんというのは、先ほど、負担というので、できたら、前回もそうでしたが、夏休みあたりのほうが行きやすいのかな。できたら、管理職だけでなく、先生方がお出になると僕らの会には一番いいと思います。この辺は三鷹の、あるいは小平のというのは、夏休みあたりを中心に考えてよろしいでしょうか。

西田生涯学習部長 先ほど申し上げたように、ちょっと予算の関係が、4月、5月しかとれていないので、この会議も含めて何回分か。

小堀生涯学習係長 4月、5月合わせて2回分です。

西田生涯学習部長 なので、ちょっと、ここで完全に決めるということではなくて、こういう方向で考えたいぐらいのところとめておいていただくと、決定されてしまうと、我々、予算がない中で動くというのはちょっとできないものだから、夏休みぐらいにやりたいなというような感じで、ちょっと今日のところはお断念いただければと思います。

原嶋議長 では、(2)と(3)の絡みの中で、関連性、接続性というのか、そういうので、あと1年半、皆さんとやっていこうということでもよろしいでしょうか。早々に何かということではなくて、皆さんと話し合いながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

それでは、次に行きたいと思います。補助金関係ですか、(4)と(5)、お願いできますか。

小山田委員 私もすみません。今日、この後、一つ会議があるので、ここで失礼させていただきます。

小堀生涯学習係長 では、議題(4)と(5)、少しかわるところがあるので、関連しながらお話しさせていただくと、まず、(4)のほうで、平成28年度社会教育関係団体スポーツ関係団体補助金の交付についてということで、資料として提出させていただいている小金井市社会教育関係団体補助金交付要綱という3枚をとじ

ているものがありますが、2 ページ目の第 8 条に当たりますが、社会教育関係団体補助金の交付決定等という項目があり、こちらについて、補助金の決定については、社会教育委員の会議の意見を聴いた上で決定するものとするという文言が第 8 条に書かれています。今回、資料として提出させていただいたものに、平成 28 年度スポーツ関係団体への補助金交付額という、横の A 4 判 1 枚の資料がありますが、公益財団法人小金井市体育協会、NPO 法人黄金井倶楽部さんへの補助金の交付について、社会教育委員のこちらの会議でご意見を伺った上で交付についての決定をしていきたいと思うので、まずは議題（4）として、こちらの A 4 判の補助金交付額の資料を見ていただいて、何かご意見があれば伺いたいと思います。

西田生涯学習部長　ここでちょっとご提案というか、お願いであります。原嶋議長が、公益財団法人小金井市体育協会会長をされているので、利害関係者ということになるので、この議論をする際は、事前に話をしていなくて申しわけないですが、一応、議論からは除外という形になり、柴田副議長のほうでお願いしたいと思います。

柴田副議長　では、よろしく申し上げます。
こちらは、いただいた資料の内容を検討していただくということでしょうか。

西田生涯学習部長　ご意見を伺っていただければ。

柴田副議長　では、先ほどの事務局の説明に基づき、議題の（4）平成 28 年度社会教育関係団体スポーツ関係団体への補助金交付について、ご意見のある方はお願いします。

石田委員　27 年度から 28 年度にかけて、人件費補助の部分が 69 万円減っているが、これでやって運営に支障はないのでしょうか。

柴田副議長　では、お願いします。

小堀生涯学習係長　こちらは人数の増減ではなくて、産休、育休の関係でお休みされている方の分のところに、非常勤というか、別の形で入られる方がいらっしゃるということです。

石田委員　結局、職員が休まれるので、パートの方が行くための歳出のような感じですが

か。わかりました。

柴田副議長 ほかにご意見はありますか。

佐野委員 いつも思いますが、要するに体協がこれだけ多くの事業をやって、事業費の補助が299万2,000円と、それに比べてNPO法人のほうは事業補助が40万、これはいつもどういう事業をやっているかというのが出ていないのです。だから、備考のところに、スポーツ・健康増進・文化活動振興事業というふうに書いてあるが、実際にどういう事業をやっているのかというのが示されていないので、できればこういうことにこれだけの予算を使っているということを、ちょっと何か一覧表があるとわかりやすいかなと。体協のほうは1から9まで一応こういう形でお金を使っているというのが出ていていると思うので、それに準じた形で、要するに、補助金を交付されるわけだから、その辺のところをきちんと出していただいたほうがわかりやすいんじゃないかなというふうに思うことが1点と、もう一点は、要するに、7倍ぐらいか、体協のほうか。だから、事業の内容からしてちょっと少ないんじゃないかなというふうに思うので、これは小金井市の財政の問題もあるかと思うが、やはり事業の量によって少し増があってもいいんじゃないかなというふうに思います。その2点です。

柴田副議長 では、事務局お願いします。

西田生涯学習部長 今の件については、今回これでもう出ささせていただきましたが、次回以降、出すときに検討させていただきたいと思います。

それから、事業の金額の差であるが、基本的には、いろいろ成り立ち、それからやっているものの内容とかというのがわかれば、多分、そこで差が出てきてしまっているということも自明になってくると思います。ちょっと資料については、次回以降、考えさせていただきたいと思うので、よろしくをお願いします。

柴田副議長 では、原田委員、お願いします。

原田委員 補助金の交付額はこの横長の表に書いてある合計の金額のところと見てよろしいのでしょうか。この金額が交付されるということでしょうか。

小堀生涯学習係長 そうです。表の一番下の合計額です。

原田委員 配られた資料で、補助金交付に伴う事務取扱基準の第3条に書いてある交付額というのは、これは何でしょうか、1万円、2万円……。

小堀生涯学習係長 すみません。ちょっとまざってしまって申しわけないですが、(5)で説明をさせていただこうと思っていたのですが、こちらの社会教育関係団体としての、登録をしている団体への補助金資料です。

原田委員 これはまた次の議題ですか。失礼しました。わかりました。

柴田副議長 ほかにご意見はないでしょうか。
では、この補助金の交付金額を、皆さん……。

西田生涯学習部長 意見をいただくだけということです。特に適否ということではないです。終了していただければ。

柴田副議長 では、ご意見が全て上がったので、議題(4)に関してはこれで終了します。

西田生涯学習部長 承ったので、よろしくお願いします。
では、また、議長、よろしくお願いします。

原嶋議長 (5)について、よろしくお願いします。

小堀生涯学習係長 (5)についてですが、こちら、先ほどちょっとお話しさせていただいた要綱の第8条に、社会教育委員の会議で意見を聴いた上でということになっています。あと、今現在、先ほど原田委員からご指摘があった小金井市社会教育関係団体補助金交付に伴う事務取扱基準というA4、1枚のものと、あと、社会教育関係団体補助金(見直し)についての提言という、こちら、ちょっと関連する話ではありますが、こちらの補助金交付の申請は、例年、申請がありましたら、こちらについては申請の内容を確認して、提言のほうになりますが、提言の2ページ目の5番、その他の条件というところですが、5のその他の条件(4)で、全体の申請額が、その年度の補助金予算額を越えた場合は抽せんとするという提言をいただいております、今まで予算を超えて抽せんというのは、多分していなかったかと思うのですが、本年度、今後の申請状況とか、あとは予算の決定状況にもよりますが、社会教育委員の会議等で、この抽せんという形をとらせていただくことがあるかもしれないので、その旨をあらかじめお伝えさせていただきます。ただ、こちらの補助金のご意見を伺うことについては、

ちょっと予算の絡みもあるので、次回の会議、もしくは6月以降の会議でさせていただくようになるかと思うので、こういう要綱があつてご提言をいただいているということをお伝えだけさせていただきたいと思います。

以上です。

原嶋議長 ありがとうございます。
今ので、ご質問ありますか、まず。
それで、原田さんのほうからご質問ありますか。

原田委員 いや、わかりました。

石田委員 今、社会教育団体の申請団体、100くらいでしょうか。

小堀生涯学習係長 そうです。

原嶋議長 それでは、これはあくまで提言ということで、今回はおろさせていただいて、何かあれば次回の会議とおっしゃっていたので、それで対応してよろしいでしょうか。

小堀生涯学習係長 はい。

原嶋議長 これは、一応、提言のところは、22期するとき、今から5期ぐらい前に出された提言でこういうことがあつたということをおろいただいたということ
です。

もとに戻ります。
報告ですが、議題で何かご提議がありますか。

西田生涯学習部長 議題の(6)のその他ですが、会議録の確認をお願いします。
平成27年度第9回、年度前の2月に行ったものですが、社会教育委員の会議について、会議録が調製できているので、ご確認をお願いします。特になければこれで確定ということよろしいでしょうか。

原嶋議長 よろしいでしょうか。これは了承されたので、よろしくをお願いします。

西田生涯学習部長 ありがとうございます。

原嶋議長 それでは、報告に移ります。報告の（１）についてお願いします。

小堀生涯学習係長 今期の委員の方々、また、前期の委員の方々にも多大なご協力をいただき、こちらの第３次小金井市生涯学習推進計画と概要版が３月にでき上がりました。こちらについては、冊子の金額が確定して、１冊８００円で頒布させていただきます。ホームページとか市報については、５月１日号の市報で、またホームページも同じくらいの時期に計画の内容も載せさせていただくので、購入されない方については、そちらのホームページからでもダウンロードできるような形になると思います。

以上、ご報告です。

原嶋議長 それでは、報告の（３）その他、ありますか。

西田生涯学習部長 小金井市議会の関係についてご報告をさせていただきます。

第１回定例会と第２回臨時会がありました。その関係で、先ほど申し上げたとおり暫定予算というものになってしまいました。これは、本予算を第１回定例会というところで提案をしましたが、賛成少数により否決をされてしまいました。そこで、急遽第２回臨時会を開催して、４月分及び５月分の予算のみ計上させていただいています。その中身ですが、あくまでも定例的、義務的経費を原則とした予算編成で、しかも２カ月分のものということになっています。したがって、政策的、もしくは新規の事業というものについては、原則一切この２カ月分の予算の中には入っていません。したがって、この社会教育委員の会議に関係するところと言えば、先ほど来申し上げている視察に関する関連予算を含め、今月、来月で開く委員会の諸経費以外の予算は一切とれていないと、現時点で、そういう状況になっています。

これをどう解消するかについては、５月に臨時会をもう一回開き、その中で本予算、つまり今年度の、来年３月までの予算について再提案のような感じになりますが、２カ月分を除いたそのほかの部分をご提案させていただく予定です。それで、通れば、その予算で１年間いけるが、もし否決ということになると、また、２カ月、３カ月、その辺はまだちょっとわからないが、また暫定予算という形で数カ月分の予算をとって、また、臨時会等でその後の予算も決めていくと、こういう流れになっているので、ご留意をいただければというふうに思います。

それから、もう一つであります、公民館であります、公民館の本町分館への本館の移転ということについて、これが決定して、３月３１日をもって福

社会館が閉館しました。このことに伴い、福社会館に存在していた公民館本館が本町分館の位置のところに仮移転をしました。このことに関する条例であります。本町分館を当面の間、休館するという修正案が出されて、そちらのほうは実は可決されています。実務上や法律上の問題点はないですが、今はどういう整理になっているかという、公民館本館が本町の本町分館の位置になっている。本町分館という名称は残っていますが、当面の間、休館しているという扱いになっています。そういう形で、公民館が移転をして、実際に引っ越し作業等を4月の初めまでかかってやって、現在のところは順調に進んでいるという状況になっています。

報告は以上です。

原嶋議長 報告なので、ご質問だけですか、もしあれば、今の。

佐野委員 今ある本町分館が本館の機能になっているために、本町分館は当面休館という形で理解するのでしょうか。

西田生涯学習部長 そのような条例になっています。

佐野委員 わかりました。この間、ちょっと場所を確保したので、えっ、休館と。

西田生涯学習部長 本町分館という名前は使われないということです。

佐野委員 わかりました。

原嶋議長 ほかによろしいでしょうか。

報告ということで、終わります。

その他でありますか。よろしいでしょうか。事務局さん、よろしいでしょうか。

あとは、配付資料も最初に言われたので、今後の予定は確認していただければと思います。

また、27日については出欠席をとられると思いますが、私どもが中心になって進めていくということであるので、ご参加方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

西田生涯学習部長 三者懇談会が5月27日にあるので、よろしくお願ひするということと、あと、皆様にちょっとご案内ですが、また原嶋会長のほうで、体協で刷って

ただいきましたが、小金井チャレンジデー2016というのが開催されます。これは、15分間継続した運動、これはウォーキングでも買い物でも何でもいい。15分間、とにかく体を動かしたということがあったら、裏に書いてありますが、報告先に、5月25日、1日だけではありますが、21時30分まで、電話の場合は9時からということになりますが、ご報告いただくと、これが小金井市のチャレンジデーの参加実績としてカウントされ、表を見てください。今回、秋田県の大仙市との対戦になりますが、パーセンテージが高いほうが勝利という形でカウントをされます。ちなみに昨年度は小金井市は75.2%という高率の参加率をいただいたものの、相手が80%を超えていて対戦には負けてしまったという、ちょっと信じられない思いをしましたが、去年の調子以上にやっただけであれば、小金井市は今年は3回目ですが、何とか勝てるのではないかという淡い期待をしているので、ぜひ皆様、それからお知り合いの皆様、お誘い合わせの上、チャレンジデーに参加をしていただきたいと思います。ここに報告用紙というのがありますが、これでファクスをしていただいてもいいし、メールを送っていただいてもいいし、そういう形でお願いをできればと思います。

何か、原嶋会長、ありますか。

原嶋議長

今の説明で完璧です。生涯学習部がほんとうに3年間、死に物狂いでやっているイベントです。何とか西田部長を男にしたい、みんなで胴上げしなければいけないのかなというふうに思います。

なお、今、大仙市とおっしゃったが、ご案内のように、大仙市は敵のことをちょっと知らなきゃいけないので調べてみました。大曲というのは、ご存じのように花火で有名です。あそこで勝って花火を打ち上げさせないように頑張りたいなと思っています。せいぜい心の花火を打ち上げて勝利を味わいたいなど、3年目であるので。皆さん、家族も、おじいちゃん、おばあちゃん、そういった周りの人たちに声かけしていただければ助かります。私らも、あと1カ月やって進めなければいけないという使命を負っています。

西田生涯学習部長 今回、体協さんに主にやっていただいているという形になっているので、原嶋会長も非常に一生懸命やっていただいています。ほんとうにお礼を申し上げます。

原嶋議長

5月二十何日でしょうか。

西田生涯学習部長 25日です。

原嶋議長 次の会がこちらの場合は……。

西田生涯学習部長 27日です。

原嶋議長 そのときにはあまりいい顔をしていないか、いい顔をしているか、西田部長さんの顔を見ればわかりだと思います。ご協力願います。

原田委員 原嶋さん、質問いいでしょうか。

原嶋議長 どうぞ。

原田委員 これは全国で市同士が対戦するということでしょうか。

原嶋議長 全国ということではないです。

西田生涯学習部長 参加したいところです。

原田委員 それから、後援に外務省が入っているのはどうしてでしょうか。

西田生涯学習部長 これは外国ともやっているところがあるからです。実は、チャレンジデーと書いてありますが、国際チャレンジデーです。オランダが発祥の地です。だから、どちらかという、日本でもオランダの大会をまねしてやったと。実は、今回はないですが、やろうと思えば海外の市と対戦したりというのも可能です。やっているところはないですが、対戦相手と国際電話とかやらなきゃいけないので、とてもちょつとやってられないというのがあります。英語でしゃべらなきゃいけないとか、そんなのがあります。

原嶋議長 よろしいでしょうか。

原田委員 わかりました。

原嶋議長 ちょっと早いですが、よろしいでしょうか。またこの後、ひとつよろしくお願います。今日はありがとうございました。